

## 【準決勝】

### 専修大松戸 vs 日体大柏

専修大松戸は1-4-4-2システム、日体大柏は1-5-3-2システムのフォーメーションでキックオフ。専修大松戸はFW石津の背後への抜け出しと、中盤で複数の選手が距離を近くし、コンビネーションでバイタルエリアへ侵入しようとするが中央をコンパクトに固めた日体大柏の守備を崩すことができない。日体大柏は奪ったボールは素早く運動量豊富な2トップへ供給し起点とする。また、攻撃時にサイドで高い位置をとる日体大柏の両SBが、専修大松戸の守備が整う前にアーリークロスを入れ、徐々にゴール前に迫るシーンが増え、日体大柏が先制に成功する。

後半に入り、専修大松戸は奪ってから攻撃への切り替えのスピードが上がり、相手の間延びしたスペースの中でテンポよくボールを動かし始める。しかし、日体大柏が献身的なプレスバックやDFラインの粘り強いゴール前の守備により、相手の決定機を作らせない。無失点で勝利を収めた日体大柏が決勝戦へと駒を進めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人

### 八千代 vs 暁星国際

序盤は強風を生かした攻防が続いたが、前半11分、サイド突破で得た暁星国際のCKをDF安倍がヘディングで合わせ先制する。暁星国際の激しいチェイシングをなかなか崩せなかったが、前半20分八千代のサイド突破により得たCKをFW納富がヘディングシュートをファーで合わせ同点に追いつく。その後八千代は攻守の切り替えを意識し、サイドチェンジを繰り返しながら突破を試みる。そして前半39分ドリブル突破から得たCKを八千代DF松野のボレーで勝ち越しに成功し、前半を終了した。

後半は交代出場の八千代FW坂根のポストプレーや、MF木曾のドリブル突破からチャンスメイクをしたが、なかなか得点できなかった。一方の暁星国際も途中出場のFW明田のスピードを生かし八千代DFの背後を狙った。試合終盤の暁星国際DF渡邊の度重なるロングスローによる攻撃をはね返し、八千代が5年ぶりの関東大会出場を決めた。

千葉経済大学附属高等学校 奥寺 亮介

## 【決勝】

### 日体大柏 vs 八千代

準決勝同様、立ち上がりはセカンドボールの回収の攻防が続いたが、八千代は徐々に速い切り替えからボールを回収し、ボールを保持しながら⑭納富のポストプレーや⑧木曾のドリブル、⑪田中の背後へのランニングによって得た CK やスローインからチャンスを作った。

日体大柏の 1 - 3 - 5 - 2 の陣形のビルドアップを 1 - 4 - 4 - 2 の守備ブロック形成しコンパクトな陣形を保ちながらボールを奪いカウンターに繋げた。一方の日体大柏も準決勝同様、2 トップにボールを集め、⑬櫻井が起点となりゴールに向かう。

八千代は追い風を利用し、右サイドからのゴール方向へのクロスや、GK キャッチからの素早いハイパントでチャンスを作るも、日体大柏の⑤土屋を中心とした堅い守備を崩せず前半を終えた。

後半 58 分、サイド突破から得た CK を日体大柏⑭中村が追い風を生かしたインスイングの CK を直接決め先制。72 分、ショートカウンターからゴール前に侵入し、日体大柏⑪鈴木のパスから⑦吉田が冷静にゴールに沈め追加点を挙げた。八千代も 74 分、すぐさまサイド突破から得た CK を八千代⑩坂根が折り返し、③松野が押し込み 1 点を返した。また 77 分、八千代⑩横田のゴール前で浮き球パスから、⑫田中が背後を抜け出し同点に追いついた。両チーム途中出場選手が決定的な役割を担い選手層の厚さが伺える好ゲームであった。

延長に入り、日体大柏がボールを持つ時間が増え、立て続けに決定機を作る。一方、八千代も⑩坂根のフィジカルを生かし、カウンターを狙ったが、両チームゴールを奪えず、PK 戦により、日体大柏が 3 年ぶりに優勝した。